

不易流行

～和賀組社長からのメッセージ～

VOL.117 (2025.12.26)

令和7年度スローガン
新たなステージへの挑戦
～和賀組さんで良かったと言われよう～

株式会社和賀組 代表取締役 和賀幸雄

12月20日、ウズベキスタン、キルギス、カザフスタン、タジキスタン、トルクメニスタンの中央アジア諸国と高市総理との首脳会談が都内ホテルで行われました。中央アジア諸国はシルクロードの歴史と文化遺産、豊かな自然と多様な景観、豊富な天然資源などが魅力と言えます。

1945年8月9日、旧ソ連は日ソ中立条約を破棄して旧満州（中国東北部）などに侵攻しました。ソ連はスターリンが同23日に出した秘密指令に基づき、武装解除された旧日本兵らをシベリアやモンゴルなどの収容所に連行しました。厚生労働省によると、鉄道敷設、森林伐採、道路整備、建物建築などの強制労働に従事させられた抑留者は約57万人以上になり、うち抑留中に死亡したのは約5万以上と推計されています。

ウズベキスタンには約25,000人の抑留者が送られました。同国は雨が少なく乾燥し、夏は最高気温が40度、冬は最低気温がマイナス20度にもなる大変厳しい環境の国です。抑留者はその中で水力発電所や学校などの建設に従事しました。中でも有名なのが「ナヴォイ劇場」という国立の劇場で、457人の抑留者により1945年から1946年にかけて建設された建物で、現在でもオペラやバレエの上演に使用され、ウズベキスタンの紙幣にも描かれているそうです。



ナヴォイ劇場を建設した抑留者たちが収容されていた施設の近くに住んでいた人によると、「日本人抑留者はいつも決まった時間に朝夕整然と隊列を組んでいた。」またある人は「彼らの食事は極めて粗食だったので、空腹だろうからと収容所の柵の間からパンと果物を差し入れたところ、数日後同じ場所に手作りの木のおもちゃが置かれていた。母親に伝えると『日本人は勤勉で礼儀正しい、物を作るのもうまいうえに恩を忘れない人だ。あなたも日本人のようになりなさい。』と。」また、ウズベキスタンの前大統領である故カリモフ氏も生前、父から『息子よ、ごらんあの日本人を、ロシアの兵隊が見ていなくても働く。おまえも大きくなったら日本人と同じように人が見ていなくても働く人間になりなさい。』そんな言いつけを守って育ち、今では大統領になった。」と話していたそうです。

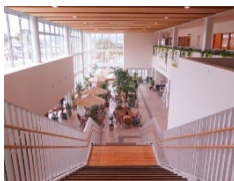
完成から20年後の1966年ウズベキスタンは首都のタシケントの約7割の住宅や建築物が倒壊する大地震に見舞われました。その中でナヴォイ劇場をはじめ日本人が建築に携わった建物の多くは地震に耐え、ほぼ無傷で立ち続け家を失った人達の避難所として活用され多くの人の命を救いました。現在でもナヴォイ劇場はもちろん日本人がつくった発電所や建物が現役で使われており、今でもウズベキスタンでは「地震が来たら日本人がつくった建物に逃げろ！」と語り継がれているそうです。



やすらガーデン



10/29 山口県下関市に参りました。市の課題は出先の安岡支所が無い、図書館も無い、赤字続きの園芸センターの利用を考えなければならないという3点でした。これを地元の建設会社安成工務店がPFI事業で解決、素晴らしい施設で多くの来館者で賑わっていました。



秋田県立大学



秋田県立大学の学生4名に、3カ月にわたる調査・取材で和賀組を訪れて頂きました。最終日の12月10日、これまでの結果をまとめた「新人教育プログラム」を当社幹部の前で堂々とプレゼンして頂きました。私たちでは浮かばなかった発想や大学生らしい柔軟な考えがふんだんに詰まった内容でした。

大間ジローレジェンドヒストリー



12/13 湯沢ロイヤルホテルにて「大間ジローレジェンドヒストリー」が開催され、遠くはUSA・北海道・東京からも大間ファンが湯沢に来ていただき、254席が売完となりました。イントレ（ローリング足場）の搬入組立解体搬出に協力頂きました社員の皆様有難うございました。

